

# 四季

題字 理事長自筆

第50 秋号



宮崎市高松町2番16号

TEL:0985-26-2800

FAX:0985-27-6811

「高齢社会に於ける医療改革は、値上げよりも未病に注目を」  
 診療顧問 濱田 稔

最近の医療情報紙面によると、健康と命の大切さを学ぶことにより、国民を教育する方向性が出てきている。

がん対策推進協議会が2007年に発足して、学校でのがん教育の推進が図られている。平均寿命は伸びても、「健康寿命」は以前から僅かしか伸びていない等、メタボの放置と疾病のリスクが注目され、厚生労働省は2013年の健康寿命は、男性71.9歳、女性74.2歳と10年前の値が僅かに伸びたことを報告している。その重要なポイントが食生活であると考えられる。わが国では食の欧米化が定着して内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）を招き、さらに心筋梗塞、糖尿病などの生活習慣病の発症を招き、健康寿命を短縮する恐れが生じている。まず、余剰な内臓脂肪を減らすには、主食、副食の量とバランスに注目して、さらに運動が大切であることなどを小学生から教育を行なって習慣付けることが推進されている。最近、日本人間ドック学会発表の新基準値が発表され、特に高齢者の血圧値、血糖値、肝臓、GPT

値、悪玉コレステロール値、中性脂肪、BMI値を基準範囲（正常範囲のこと）として提出しては話題を賑わせている。さらに、数値で見えるあなたの「認知症」度合いの表示が示され、新国民病の予防を提言する向きも出てきている。特に高齢者の毎日をより健康に生きたいという希望を阻害する認知症にならないためにも、朝のみだしなみ準備、タンパク質不足にならない食事の摂取、読書（内容について家族や友人と話し合う）・風呂（血流、動脈硬化予防に良い）・毎日1日置き30分程度の散歩、20分程度の昼寝、外出・人との出会い、就寝の準備と習慣、睡眠（毎日同じ時間に床に付き、1日に8時間の睡眠）などで、猜疑心をなくす、もの忘れなどを防ぐことが必要と思われる。このように約24時間周期で睡眠や覚醒のリズムを生み出す体内時計の調節に、正しい臓から分泌されるインスリンが重要な役割を有していることが発見された。適切な時間に光を浴びたり、食事を摂ったりすること、調節するのである。このインスリンを阻害する物質を与えると新たな時計遺伝子が働き、適切な糖分の摂取の時計遺伝子の働き、適切な糖分の摂取の時差ボケの解消や夜型の生活改善に有用な可能性が示されている。今年のノーベル化学賞では脳の記憶、機能を司る細胞が海馬に存在することを見出し、山中伸弥博士が見出した蛍光物質でラベルして、rレザールによるウイルス観察可能な超解像蛍光顕微鏡の開発により細胞の働きを解明し、人のアルツハイマー病やパーキンソン病の

## 理念

○私たちは、自分が受けた医療・看護・介護を提供します

## 基本方針

- ・患者さまの権利と尊厳を大切に、心のかもった医療・看護・介護を提供します
- ・根拠に基づいた説明のできる医療・看護・介護を実践します
- ・全職種による安全で質の高いチーム医療を行います
- ・急性期から在宅医療までを繋ぐ医療・看護・介護を提供します
- ・地域連携に努め、地域包括ケアシステムの発展に貢献します
- ・お互いを信頼し、やりがいと誇りを持てる職場にします

宮崎医療センター病院

## お知らせ

- ◆ 病院主入検査  
10月24日 13:00～
- ◆ 労働安全衛生研修会  
○ 管理監督者へのメンタルヘルス教育  
10月17日 16:00～17:00  
○ メンタルヘルスと労働安全  
10月29日 12:30～14:00
- ◆ 大規模災害対処訓練  
12月10～12日 午後

## 学会等参加実績（7月～9月）

- 2/四半期の学会等参加者は、以下のとおりです。
- 第57回 日本腎臓学会学術総会  
齊田 光彦（7/4～7/6 神奈川県）
  - 第15回 臨床消化器病研究会  
児玉 真由美、折田 圭大（7/26 東京都）
  - 第7回 日本カプセル内視鏡学会学術集会  
児玉 真由美、折田 圭大、村山 貴信（7/27 東京都）
  - 第36回 日本手術医学会総会  
安藤 好久、高橋 将史（9/26～9/27 北海道）
  - 第37回 日本高血圧学会総会

## 診療情報



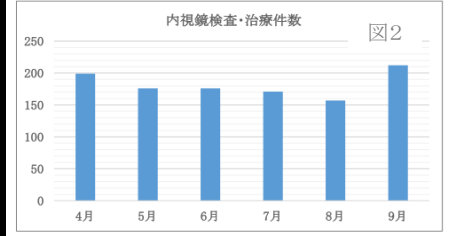
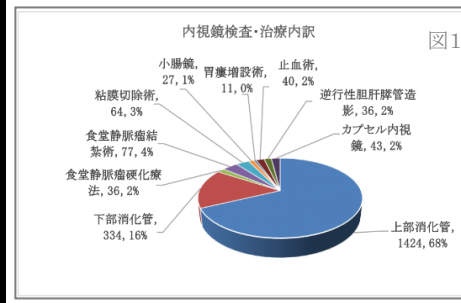
### ★ダブルバルーン内視鏡 更新★

- ★ 3.2mmの大鉗子口により高い処置性能をサポート優れた吸引性能と、止血・バルーン拡張など多彩な処置に対応できます。
- ★ バルーン送気口位置を変更し、使い勝手が良くなりました。
- ★ 近接での解像度向上により観察能がアップしました。

### ★新医療機器を導入しました★

《ダーモスコープ・生物顕微鏡》

ダーモスコープとは、ハログランプや白色発光ダイオードにより病変部を明るく照らし、かつエコージェルの偏光フィルターなどにより反射光のない状態（光の乱反射を抑える）にして、11倍から31倍程度に拡大して観察する無侵襲の皮膚診断器具である。色素性皮膚病変を観察する特殊なルーペであり、メラノーマ（悪性黒色腫）と色素細胞母斑（いわゆるホクロ）の早期鑑別に役立つ。また、基底細胞癌、脂漏性角化症などの色素性皮膚疾患および血管腫、血腫の鑑別にも極めて有用である。また、皮膚の角質をこすり、顕微鏡で観察することで水虫（白癬菌）などの検査を行うことができる。



診療実績

平成25年度内視鏡検査・治療の実績は、合計2,092件で、約6割が外来患者に対する検査・治療で、项目的には約8割が上・下部消化管が占めました。カプセル内視鏡の実施件数は43件でした。（図1）

本年度9月までの内視鏡検査・治療の実績は図2のとおりです。カプセル内視鏡は26件です。

## 患者様の権利

- ・患者様は、良質な医療サービスを平等に受ける権利があります
  - ・患者様は、人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります
  - ・患者様は、自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。また、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
  - ・患者様は、医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを決定する権利があります
  - ・患者様は、プライバシーを尊重される権利があります
- 宮崎医療センター病院では、上記に基づき患者様の権利を尊重して医療を行なっております。

宮崎医療センター病院



《巻き巻きロール》

①豚の薄切り（ロールス、脂の少ないバラ）などを並べる。

②ピーラーで縦に薄く切ったナスを重ね、中心にえのきを置きくるりと巻く。

③かるく塩コショウを振り、表面をこんがりフライパンで焼き、ポン酢をかける。



《ナスの照り焼き》

①ナスを1センチ位の輪切りにして、両面に薄く小麦粉をまぶす。

②油をひいたフライパンでこんがり焼く。

③火が通ったらタレ（同量の砂糖・醤油・酒）からめて出来上がり。

今回は、「ナス」を使った料理レシピのご紹介です！  
料理の仕上げに、大葉や胡麻を散らしても美味しいよ！  
ぜひ、お試しください！



【秋ナスは嫁に食わずな！旬のナス料理】  
栄養科 黒木 典子

《訪問介護》 主任 長友 玲子

みやぎき総合介護サービスの訪問介護事業所では、介護福祉士3名及び初任者研修終了同等の4名の計7名のスタッフで訪問介護サービスを提供しています。

通常の実施地域は、宮崎市及び国富町で、

今後、今以上に地域連携室や他の部署との連携が必要ですので、宜しくお願い致します。



《A B 3病棟》 病棟副師長 松山 麻美

AB3病棟は、60床の医療型療養病棟です。入院患者は、認知症を伴う高齢者が多く、慢性疾患の急性増悪や、気管切開や胃瘻などに対する医療看護及び高齢者のくらしを整えるニーズに応える介護など、看護・介護の協働が求められる病棟です。現在、看護職19名、介護職21名の40名で患者様の24時間の療養生活に関わっています。

平成26年度に診療報酬が改正されましたが、それにより新設された在宅復帰機能強化加算を9月に取得しました。現在、看護職・介護職で入院中の患者様の日常生活自立度向上の支援や、運動機能向上の支援を強化しているところとです。4月以降の在宅復帰率は、平均61.7%、ベッド回転率は平均11.4%です。

《通所リハ活動報告》

9月30日に、小田雅之施設課係長の指導の下、避難訓練と屋内消火栓放水訓練を行いました。いざという時に迷わず行動できるよう、皆さん真剣に訓練に取り組みました。

訪問介護の業務は、介護保険法で定める要介護・要支援者の方に対して、居宅での介護や日常生活上のお世話等のサービスを提供することです。ADL（日常生活動作）に支障がある方に対して食事・排泄・入浴等の援助を行う『身体介護』や調理・清掃・洗濯・買物などの日常生活の援助を行う『生活援助』があります。また、その両方を合わせて提供する場合があります。

但し、全てを代行するのではなく、自立に向けた支援として提供します。利用者にとって『何でも屋』ではなく、計画に沿って適切なサービスを利用し、信頼を基に専門性を発揮してサービスすることが訪問介護の仕事です。

現在7名のスタッフが訪問させて頂いております。ヘルパーサービスの必要方、是非ご相談下さい。

月曜日から土曜日までサービスを提供しています。

訪問介護の業務は、介護保険法で定める要介護・要支援者の方に対して、居宅での介護や日常生活上のお世話等のサービスを提供することです。ADL（日常生活動作）に支障がある方に対して食事・排泄・入浴等の援助を行う『身体介護』や調理・清掃・洗濯・買物などの日常生活の援助を行う『生活援助』があります。また、その両方を合わせて提供する場合があります。

但し、全てを代行するのではなく、自立に向けた支援として提供します。利用者にとって『何でも屋』ではなく、計画に沿って適切なサービスを利用し、信頼を基に専門性を発揮してサービスすることが訪問介護の仕事です。

現在7名のスタッフが訪問させて頂いております。ヘルパーサービスの必要方、是非ご相談下さい。

【医療安全研修会】

9月17日・24日に、黒田伸一医療安全管理室副室長を講師に、「当院におけるインシデント・アクシデント」をテーマに研修が行われました。当院の現状という一番身近でも、なかなか聞くことのない話を聞くことができ、参加職員が有意義な時間となりました。

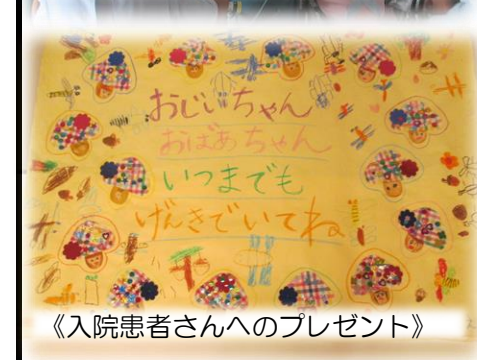


【中途入職者集合教育】

7月28日、10月27日に、中途入職者集合教育が行われました。病院の概要や医療安全について、皆さん真剣な表情で耳を傾けていました。一日でも早く業務に慣れ、活躍されることを願っています。

《院内研修会》

説明や、認知症の患者が何故に道に迷うのか等を説明出来る可能性を示唆した。かつてペーシルバニア大学で聞いたことだが、日本人教授が第二外国語の英語が堪能であったのに脳出血発症後は日本語のみを話すようになったこと、母国語と第二外国語の記憶中枢が別であることも、これで説明出来るのかも知れないと期待している。お互いに、ストレスを避けて、健康と命の大切さを理解して、健康寿命を伸ばすことができるよう努めたいものだ。



《園児さん達による踊り》

9月18日に、C館7階ホールにて、入院患者様・ご家族・通所リハビリ利用者様を対象に、敬老会が行われました。園児さん達による歌やお遊び、ボランティアの方々による三味線演奏やマジックが披露され、皆さんで歌を唄ったり、手拍子が盛り上げ、会場は笑顔に包まれました。



《管理者対象 研修会》

10月17日・29日に、宮崎産業保健総合支援センターの小寺真紀さん、介護労働安定センターの藤本洋子さんを講師に迎え、「メンタルヘルス」というテーマで研修が行われました。メンタルヘルスとは、健康な心や、健全な精神状態で生活できるための心の健康をい、管理者からの視点や、ストレス解消法の話しをして頂き、今後業務を行う上で、大変参考になりました。

《納涼祭》

7月25日・9月5日に、エアラインホテル4階SHISEN（シセン）で、全職員を対象とした納涼祭が行われました。合計259名が参加し、たくさん飲んで食べて、労をねぎらうとともに、他部署との交流を深めました。次回は年末の忘年会です。それまで、職員一同力を合わせて日々の業務を頑張ります！



《経理課 蛇原圭介さん》

《医事課 杉本直隆副主任》

労働安全衛生法において定められている国家資格であり、労働環境の衛生的改善と疾病の予防処置等を担当し、事業場の衛生全般の管理を行います。講習を受講し試験に挑み、見事合格となりました！おめでとうございました！病院での更なるご活躍を期待しております！